



東海大学大学院 医学研究科

教員紹介

領域(医学部組織)
医学教育学

専門分野キーワード

教員氏名	浦野 哲哉
取得学位	博士(医学)
現在の身分 (役職名)	基礎医学系医学教育学 教授
専門分野	医学教育学 呼吸器内科学
現在の研究課題	能動的学修に有効な教授法、シミュレーション教育、学習者評価法、呼吸管理学
所属学会	日本医学教育学会、日本医学英語教育学会、日本呼吸器学会、日本内科学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本結核・非核性抗酸菌症学会

研究内容

これまで我が国の医学教育は各医学部や教員の自由裁量に委ねられてきた結果、世界標準からはややかけ離れたものになっていました。世界標準を満たすためには、教育のアウトカムを常時、客観的に分析し、カリキュラムの開発とカリキュラム評価などの面で質の向上に繋げるシステム作りが必要とされます。また、医学の発展と共に修得すべき医学知識は指数関数的に増加しており、従来の知識詰め込み型教育では立ち行かない時代となり、能動的学修が必須の時代になりました。これからはエビデンスに基づく有効な教授法を確立することが要求されます。

本学では 2008 年度から、クリニカルクラークシップで臨床実習を行っている5年生がインストラクター(教職員)の監視の下に新入生を指導するという「屋根瓦方式の BLS 教育」を導入しています。屋根瓦方式の教育は極めて能動的な学修法であり、スパイラルカリキュラムの理論に基づいた方略です。アンケート調査により、屋根瓦方式の教授法は極めて有用であることが明らかになりました(論文1)。

北米では 4 年制大学を卒業した所謂学士が 4 年制の medical school に入学するのが一般的です。一方、我が国をはじめ、欧州の多くの国では高校卒業者が医学部に入学します。しかし、近年、欧州、アジアでも学士入学を採用する医学部が増えています。本学では 1989 年から学士入学プログラムを導入しており、現在までに、のべ 10,000 人が受験し、600 人以上が入学しています。2000 年 4 月以降に入学した学生(学士入学プログラムと高校卒業入学プログラム)に関する 10 年分の成績データを後ろ向きに分析しました。分析の結果から、学士入学者では成績不良者が少なく、留年せずに卒業し、最短で医師の資格を取得する安定した存在ということが明らかになりました(論文2)。

主要論文

1. 山門一平、大久保朋一、梶原景正、亀山洋子、上條あけみ、高張洋子、辻千鶴子、内藤佳津子、永倉貢一、長澤俊郎、野田敏司、春木康男、藤原公文、渡辺敏輝、浦野哲哉、津田道雄。5年医学生への指導による新入生 BLS (Basic Life Support, 一次救命処置)講習の試み: アンケート結果から見えること。医学教育 41(6): 417-422. 2010.
2. T. Urano, M. Haida, S. Izumi, Y. Imai, K. Asano, T. Abe. Scholastic Achievements : Graduate-entry vs. School-leaver-entry Medical Students. The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine 41(4): 198-202, 2016.
3. 浦野哲哉 医学部における学士の存在～入学時から卒業までを辿って～.第 45 回日本医学教育学会大会. 2013.
4. 浦野哲哉,辻千鶴子,青木琢也,端山直樹,阿部直. 基礎系教員による臨床医学教育. 第 44 回 日本医学教育学会大会. 2012.
5. 浦野哲哉,山崎早苗,佐藤福子,青木琢也,端山直樹,田尻さくら子,阿部直. 呼吸ケアにおける医療安全. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2011.